



当日のメバル五目仕掛け

Tackle Guide

仕掛けは胴つき5本ハリにエサを付けるのが基本。チモトに回転ビーズがある仕掛けはヨレも軽減できておすすめ。慣れたら仕掛けを2連結にして10本ハリでやってみるのもアリだが、慣れないうちは5本ハリが無難だ。

り巻いて追い食いさせなよ」と船長がアドバイス。メバル釣りは鈴なりに釣るのがだいご味。派手なアタリが出るのでついつい巻き上げたくなってしまうが、その気持ちをグッと抑えるのが釣果をのばすコツだろう。そのかいあってか鈴なりとはいかないまでも、2人とも25センチ前後のメバルをダブルで釣り上げる。左舷トモの岡田さんも巻き上げを開始し、こちらは28センチの良型のメバルを釣り上げた。

右舷に回り込むとトモ2番の菊地さんのタルには2尾のメバルが入っており、オキメバルとメバルをダブルで取り込んだとのこと。すると左舷トモの寺門さんにヒット。じつくり追い食いさせて竿が海面に刺さったところで巻き上げを開始すると4尾のメバルを取り込んだ。寺門さんはその後もメバルの5点掛けやオキメバルの5点掛けも披露。船長がこの人は上手だよと言ったとおり、さすがの一言。自席に戻ると、釣友の渡辺さんのタルの中にはメバルと良型のカサゴが入っていたので写真をパチリ。まだメバルの群れが広範囲に集まっているのか、すぐに船が反応を通り過ぎてしまいうらしく頻りに潮回りが繰り返された。「うーん。メバルばかりで、まだオキメバルの群れは浅場

メバルもウスメバルも良型ぞろい



「反応はあるのに食わないよ。前回も明るくなったら食わなくなっちゃったからなあ」と船長。おそろく群れがまだ小さく、明るくなると警戒心が強くなって食い渋るのかもしれない。そこで持ち込んだカタクチイワシを一番下のハリに付けてヒラメやカサゴ狙いで投入した直後にガタガタとアタリが到来。周りではだれもヒットして

「鈴木さん！ 竿を立てて巻きなよ！」とさけぶ船長の声を聞きながら巻き続けて海面に浮かび上がってきたシルエツトは、まるで海にオレンジの花が咲いたかのようなオキメバルのパーフェクト

船宿information

茨城県大洗港
第一東海丸
☎029-267-2297
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=メバル五目乗合一人1万円 (エサ、氷付き)
▶備考=予約乗合、4時半集合。ほかムシガレイへも出船



北條 晃船長

大洗のメバルはこの記事が出たところから本格シーズンとなるので、皆さんもクーラー一杯にメバルを釣ってみてはいかがだろうか。



エクト。大きいのは30センチくらいありそうだ。最後に盛り上がったところで沖揚がり。釣果は22〜30センチのメバルが一人12〜36尾にかサゴが少々といった感じだった。



▲大洗沖のメバル五目は夏までのロングラン

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!
これから楽しみ!

釣りどきレポート

Best Season Report

ポカポカ陽気の春は船釣りデビューにピッタリの季節。ベテランアングラーの皆さん、この4月から新生活を始める若者のお祝いに船釣りへ誘ってみませんか。

狙うはハリ数パーフェクト 大洗沖のメバル好スタート

茨城県大洗港発 大洗沖 本誌APC(東京)鈴木良和 Yoshikazu Suzuki

フキノトウ。彼岸桜に黄色く染まった菜の花畑。くしゃみ……。厄介な花粉症もその一つだが、春の訪れを感じさせてくれる。今回はメバルを釣って春の到来を実感すべく、3月11日に茨城県大洗港の第一東海丸へ出かけた。

出船前に乗船者の皆さんにあいさつしている5人グループで参加の飯島さんが、「おーい。またつり情報に写真載せてもらえるから頑張ろうな」と仲間を声かけていた。聞くとヒラメの解禁取材で皆さんの写真が載ったらしく、和気あいあいとした雰囲気でした。



▼ヒレのカットはキッチンバサミが便利

メバルやカサゴなどトゲのある魚をさばくと、手のあちこちに刺さってケガの恐れがある。すべてのヒレを切ってから下処理すれば、ケガも少なくウロコの取り残しも減るので試してみたい。

今期2度目の出船 ここで狙うメバルはオニカサゴやアカムツ釣りなどのゲストで釣れるウスメバルで、オキメバルと呼ばれるメバルの一種。通常は100メートルを超える水深に生息するのだが、春になると産卵のため30メートル前後の岩礁帯に集まってくる。もう一つが、同じポイントで釣れるクロメバル、アカメバル、シロメバルなどの総称であるメバルがメインターゲットとなっている。

第一東海丸はメバル狙いの出船は今期2回目とのこと。「今日はどこに行こうか」と北條船長は思案しつつ11名を乗せて午前5時に出船となる。30分ほどで大洗沖の水深28メートルのポイントに到着。「根掛かりしますので着底したらすぐに50センチ底を切ってください」と船長から開始の合図が出された。早々に左舷ミヨシ2番の飯島さんがアタリをとらえて巻き上げを開始。顔を出したの

は25センチのメバルだ。続けて左舷ミヨシ2番の川口さん、左舷トモ3番の米川さんにもアタリが訪れたが、「まだ上げちゃダメだよ。竿がバタバタしているときは止めて、静かになったらジリジリ

●すずき よしかず/よくお客さんを接待して船を仕立てるのだが、今回私が持ち込むのはタックル6組にライジャケとキーパー各6個ずつ。もはや釣具屋みです。